

夏まき そば栽培のポイント (R6. 7. 19 版)

松本農業農村支援センター

- そばは出芽や初期生育の良否が、その後のそばの生育や収量に大きく関わります。
- 台風やゲリラ豪雨といった自然災害を避ける事は困難ですが、そばの出芽や初期生育を良好にすることは、生産者の取り組みにより対策が可能です。
そばの品質・収量を安定させるため、そばの出芽を揃え、初期生育を良くする取り組みをお願いします。

1 湿害対策

播種直後～生育初期に湿害を受けると、そばの出芽や初期生育が著しく劣る。出芽や初期生育が劣ると、雑草害や生育ムラ等を生じ、低収になることが多い。

このため額縁明渠を設置したり、サイドリッジャー等を活用した圃場内明渠等の排水対策を必ず実施する（特に大区画圃場では額縁明渠に加え、圃場内の明渠を設置した方がよい）。

【額縁明渠の設置】



【圃場内明渠設置】



2 耕起作業

圃場の凹部分（特にトラクターやコンバインの旋回部分）は水がたまりやすく、湿害を受けやすい。また凸凹が多いと播種深度が不安定になり、出芽遅れや生育ムラになりやすい。

このため均平な状態で播種作業ができるように耕起し、圃場を整備しておく。特に麦稈、雑草等の残渣が多い場合は、複数回耕起しておく。

耕起が不十分で、作土深が浅い状態で播種すると、出芽は良好でも、初期生育が著しく抑制され生育不良になる場合がある。このため作業スピード重視にならないよう丁寧に耕起する。

【作土深く、柔らかい土壌】



【作土浅く、硬い土壌】



3 適期播種

早まきすると草丈が伸び倒伏し、高温下で開花するため、結実率が悪く減収する
遅まきは生育量が少ない状況で開花し、低温条件で登熟が進むため、登熟に必要な気温が確保されず減収する。

松本管内の標高 800 m 以下の播種適期は 7 月末～ 8 月上旬で、お盆前には播種を終えた方がよい。またゲリラ豪雨等の気象災害を考慮し、播種時期は分散させた方が安全である。

4 播種量

4～5 kg/10a とする。

播種量を増やしても増収しない。播種量が多すぎると出芽数が多くなり、茎が細く倒伏しやすくなるので注意する。

5 播種作業

播種深度が深すぎると、出芽が遅れ出芽ムラになって生育が揃わない。

播種深度が浅すぎたり、鎮圧が不十分だと、播種時が高温で干ばつの場合、出芽が遅れ生育も揃わない。

このため適正な播種深度（目標 3～4 cm）になるように播種作業を行い、出芽及び出芽揃いを良好にする。また鎮圧状況にも注意する。

6 雑草対策

畝幅 30cm 程度の条播で、そばの出芽揃いが良く生育が良好なら、雑草防除は必要ない。出芽を揃いを良くして、初期生育を良好にする対策が雑草対策にも有効である。

雑草が多い圃場では、播種前に数回耕起を行ったり、播種前の非選択制除草剤処理等により、雑草がない条件で播種できるように圃場を整備しておく。

7 施肥量

そばは適する土壌 Ph の幅が広いと言われるが、数年に一度は土壌診断で土壌 Ph を確認し、炭苦土石灰などで酸度矯正は行った方がよい。

施肥量は窒素成分で 2～3 kg/10a 程度とする。

倒伏するので多肥栽培は避ける。一方地力の低い圃場は無施肥とすると生育不足で低収になるので、圃場の前歴を勘案して施肥を行う。

長期にわたり荒廃地であった圃場は、雑草が堆肥化して高地力化している場合があるので、無施肥とした方がよい。

8 適期収穫

ソバは収穫が遅れると脱粒により減収し品質も低下する。このためコンバイン収穫は黒化率 80%を目安に行う。

ソバの茎水分は成熟期でもかなり高い。このためコンバイン内や乾燥調整施設（特に粗選機）で茎葉が詰まりやすい。これを避けるため落葉を待って収穫に入る場合があるが、脱粒により子実重も減少し品質（特に色）が悪化するので、コンバイン収穫は黒化率 80%を目安に行うのが基本である。